参考　　　　　　　　　　「DIG（災害想像ゲーム）」学習指導案

１ 学年・場所 ５年〇組 教室（４５分×２コマ）

２ 単元名 DIG（災害想像ゲーム）

３ 関連する教科と内容

　 小４社会「くらしを守る」「住みよいくらしをつくる」、理科「天気による気温の変化」

　 小５社会「わたしたちの国土」「わたしたちの生活と環境」、理科「台風接近」「天気の変化」

「流れる水のはたらき」「天気の変化」

　 小６理科「土地のつくりを変化」「地しんや火山と災害」

　 中２保健「自然災害による傷害の防止」

４ 単元設定の理由

（１）目標

地図を使って、自分が暮らす地域の特徴を知り、災害をイメージします。

いざという時、近くに頼りになる人がいるか？近所に手助けが必要な人はいるか？などがわかり、地図を使うことで、情報を共有しやすくなり、誰が見てもわかりやすいものができあがります。

（２）設定の理由

５年生は自分たちの住む地域のことを既に学んでおり地図の見方も理解している。

それらの学習を踏まえ、災害はいつ、どこで起こるかわからないことから、その場での個人の判断がとても重要となる。

本題材は、地図を使うことで自分たちの住む地域で起こりうる災害をイメージしやすくなり、班の中で意見を交わすことでより具体的にイメージが持て、被害の状況を知ることが出来る。災害から自分の命を守るために危険個所、役に立つ箇所を知ることができる。

５ 必要物品

学校で用意するもの

・○型カラーシール（５色、サイズ中）×班数　・マジック（８色）×班数　・模造紙２枚×班数

・プロジェクター　・スクリーン　・A４白紙（コピー用紙）人数分　・セロハンテープ×班数

・ビニールシート２枚×班数　・ポストイット（大、中）×適当

講師が用意するもの

・ハザードマップ（震度、津波、液状化など）　×班数

６ 展開

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価（観点・場面・方法） |
| 導入（10分）展開（35分）発表準備(10分)発表（20分）1班発表3分程度質疑応答 (10分)全体まとめ(5分） | ・東日本大震災などの映像を見る・自分の町もこの映像と同じようになるのかを考える・危険だと思う物・場所を3～4個考える・安全な場所や役に立つ物を3～4個考える・班で地図に情報を書き込む。シールを貼る、ポストイットに書き出す自分たちが地図に記入したものが、どのように危険か、どう活用(利用)出来るかを模造紙にまとめる ・班ごとの発表 危険だと思った理由 安全だと思った理由（模造紙は班に近い壁や窓に貼る） | ・映像を見て、身近な所でどんな危険があるのかを考えさせる例）タンスや食器棚が倒れてくる。・地図や道具の準備・書き込む情報を説明・個人で自由な発想で考える(例示)危ない場所(もの)・狭い道、急な階段、大きな木、自動販売機、ブロック塀、歩道橋、橋・商店街など密集した地域役立つ場所(もの)・広い公園、寺社、自動販売機、コンビニ、商店、病院、学校など・正しい、間違いの判断をしない（どれも正しい）よう促す・各班の発表を危険と安全に分けて黒板に書き出し意見・質問を導き出す・他の班の発表中は、質問したいことをメモしておく・防災は、これが正しい、これは間違いと言えるものではない。その時の状況によって正しいことが変わる。・その場にいる本人が判断することが大切である・学んだことを下校時に、実際に見て確認するよう話す | ・過去の災害を知り、自分たちの地域に起こりうる災害を考えることができる・考える力・他の人の意見を聞く力・自分の意見を発表する力・発表準備に積極的に取り組んでいるか（意欲）・他の班の発表を静かに聞くことができる |